

されるのであれば、いただきたいんですけども。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 大使の方にはボランティアでしていただいております。ただ、お名前を公表とかということは、ご本人の了解を得てからやっぱりしなきゃいけないのかなと、ボランティアでしてしておりますので、恐らく応じてはいただけないと思っておりますが、そういうふうと考えてるところでございます。

○蒲生光男議長 1番、赤間泰広議員。

○1番 赤間泰広議員 わかりました。個人情報保護法とかいろいろありますので、やっぱり名前に関しては無理なこともあると思っておりますので、それはそれとして了解いたしました。

本当に今は長井市の現状を考えたとき、働く場所がなくて、何とかしてくれというのが、顔さえ見ると、そのように私に言ってくる方が多くおられます。ぜひ、本当にこれから1人でも2人でも、長井市で働く場所が提供できて、住みよい長井市にともどもにしていきたいと思います。

これで、私の質問を終わりたいと思います。本当にありがとうございました。

江口忠博議員の質問

○蒲生光男議長 次に、順位4番、議席番号3番、江口忠博議員。

(3番江口忠博議員登壇)

○3番 江口忠博議員 皆様、お疲れさまでございます。ことし最後の一般質問をさせていただきます。

師走に入りまして、ことしの出来事をあれやこれや振り返る季節となりましたけども、私の日記を見ますと、ことしの1月1日は10センチの積雪からなつたと記されておりました。こと

しは、何ととっても、3月11日の東日本大震災と、そして福島第一原子力発電所の事故、そしてまたその復旧復興、そして事故の収束、そして先ほど来出ていますが、TPPへの参加をどうするかというふうな話で、ことし1年あけて、そしてまた暮れていくような感じがしておりますが、長井市におきましては、4月の市議会議員選挙が衆目を集めたところではあります、市民の皆さんから議席を預けていただいて、もうはや7カ月が過ぎました。全くあっという間に終わってしまうことではありますが、きょうは通告しております2点について、市長のほうに質問をさせていただきたいと思っております。

まず、継続性のある中心市街地活性化についてであります。

30年来の地元の要望でありました、本町大通りの街路整備事業が関係者の方々のご努力によって、県の採択を受けて、そして国の認可を受けることとなりました。そして、今年から事業実施に移ったわけでありまして。このことは、長井市にとっても夢の実現への大きな一歩であったということは言うまでもありませんし、またここで改めて関係者の方々のご努力に対して敬意を表したいと思っております。

この街路事業整備であります、これはもうご案内のとおり、本町商店街の活性化にとどめるわけではなくて、市内の中心市街地全体、あるいはまちの新しい形にするという、まちを新しい形につくりかえるという大きな事業であります。疲弊感漂うこの長井市にとっては、千載一遇のチャンスであるというのは、以前市長のほうからのお言葉でも聞いたような記憶がございます。私も、まさにこのことを起爆剤として、未来にきちんとつないでいけるまちづくりをしなくてはならないと思っております。

そして、この新たなまちづくりには、伊佐沢地区であるとか、平野、西根、致芳、豊田、そういった周辺の地区の皆さんにも、ぜひぜひ関

心を持って参加、参画してもらわなければいけないと思っております。市長がおっしゃっておりますにぎわいの創出に参加する方々は、これは市民全員なわけでありますので、ぜひとも市民全体の共通理解が必要不可欠と考えております。

これまでの計画や情報の周知あるいはその周知状況ですね、周辺地区のこれからの期待値なども調査をしておられるのか、また活性化につながるさまざまなアイデアなど、広く市民の方々から収集などされているのか、お訪ねしたいと思います。

次に、中央地区を取り巻く、先ほど申し上げた5地区それぞれが、中心市街地とどのようなかわりを認識して、互恵的な関係を結ぶべきか、お訪ねしたいと思います。互恵的な関係と申し上げましたが、この市内には6つの地域があるわけですが、それぞれ特徴を持っております。それぞれがお互いを補完し合う関係ということも、これからはぜひ探っていくべきだろうという思いからの質問でございます。

各地区ともにそれぞれに特色がありますが、地形的な特色であるとか、文化的な特色あるいは産業構成などの特色、今後それぞれの地域が持つべき役割として自覚する時代であると考えております。その役割を認識することによって、市政全体への貢献意欲にもつながっていくでしょうし、地域が互いに補完的な関係にあることで、責任の重大さに気づくこととなると考えております。

中心市街地を支える5つの地区の意識、そして中心市街地が果たす役割を認識することが、活性化の継続には欠かせないものと考えますが、どのようなお考えか、市長にお尋ねいたします。

さて、23年度の後期のゼミが始まりましたながい市民未来塾であります。後期は100名を超える塾生の参加を得ることとなりました。行政の若手職員や市民の関心が非常に高まってき

たような気がしております。人材の育成を目的としたゼミではありますけれども、第5次の総合計画策定を視野に入れたゼミであることは、市長のお考えであるとは聞いております。

ゼミの内容は、市全体の再生にかかわる事柄ではありますが、目下は、中心市街地の活性化に向けた学習であります。そこで、中心市街地活性化に対するゼミ生の考察でありますとか、あるいはプランなど、今後どのように、この桐町成田線の街路事業の整備計画に反映させるのか、あるいはさせることができないのかも含めて、市長のほうにお伺いしたいと思います。

当然、第5次の総合計画の策定には、街路整備事業が入ることは間違いのないことでありましょうから、この未来塾での学びの成果をどのように活用するかを明確にしておかないと、ゼミを受講している方々の意欲にも影響を与えることになりましょう。ゼミ生が培った力量というものを単なる教養にしてはもったいないことでもありますし、この力量を活用する場を提供してこそ、未来塾が生きてくるものと考えております。

中心市街地活性化について、もう1点お伺いいたします。

経済活動の低迷は、工業や農業のほかにも、大型店舗の郊外進出による中心商店街の衰退にあるのは論を待ちませんけれども、街路整備事業の完了の後、果たしてどれくらいの商店が営業を継続しているのかということは、市民にとっても大きな関心事であります。継続していけるようなにぎわいの創出を図る施策も大切であります。事業主の高齢化も待ったなしでありまして、街路整備事業も計画では28年度完了予定ではあります。国の財政状況を考えれば、そう簡単に予定どおりに進むとは楽観できない状況であると思われま

す。商店の後継をだれが担うのかが課題となることは確かなことでありましょうし、後継者育成

+

についてどのような考えを持っておられるか、市長にお伺いしたいと思います。

次に、観光振興計画について伺います。

市長は、12月1日号の「広報ながい」、「市長とティーブレイク」の中で、観光振興計画について語っておられました。市外からの来訪者、いわゆる観光客の増加が、商業活動や雇用の面で大きな効果を期待できるとおっしゃっています。文中で触れておられるまちのにぎわい創出を促す都市再生整備計画の効用についても、観光交流人口の増加に期待をする思いを語っておられました。

では、この観光交流人口の増加想定数ですが、どれくらいを見込んでおられるのか、期待値でありましょうが、またそれによって増加するでありましょう雇用者や経済効果、どれくらい見込んでおられるのか、数字をもし可能でありましたらお示しいただきたいと思います。

また、ますます増加する高齢者の方々をはじめ、市民の方々がにぎわいを求めて戸外に、外に出かける人数はどのくらいあれば果たして活気のあるまちとして見られるのか。もしお考えがあればお聞かせ願いたいと思います。

本町通りを歩いていますと、ほとんど人がおりません。あそこに、私は本町で生まれ育ったのでありますが、私が若いころは、小さかったころは、もう平日であろうが日曜日であろうが本当に多くの方々が行き違っておりました。あれがにぎわいのあるまちだとすれば、果たしてどのくらいの規模の方々が戸外へ出るということを想定されているか、また期待されているか、お考えをお聞かせ願いたいと思います。

まちの活気というのは観光客の増加に期待する以前に、市民が出かけたくなるまちであることが必要でありましょうし、そのための都市再生整備計画であると考えております。

最後になりますが、ことしの9月17日、18日の2日間、古代の丘で行われました総合文化フ

ェスティバル「ぼくらの文楽」についてお尋ねをいたします。

このイベントは音楽と文化、そして教養という部分のレクチャー、そしてショップ、いわば文化と音楽の総合フェスティバルという企画でありました。私も講師の依頼を受けてレクチャーの部分に参加をしてお話をしてまいりました。

この企画の主催者のお母様が西根出身という縁もあって、また古代の丘の壮大なロケーションに魅せられ、そして循環型社会を標榜する長井市の考え方に感銘されてこの地を会場に選ばれたと聞いております。

2日間で1,500人を超える入場者があったということであります。ほとんどの来場者が市外、県外の方々に、しかも音楽をはじめとする文化的思考の高い方々であったと聞いております。非常にエネルギッシュな2日間でありました。

教育委員会が後援してのイベントでありましたが、残念なことにこれは初の企画であったためか、その趣旨や内容が市民の方々へは余り伝わっておらず、市民の入場者は少なかったようであります。しかし、主催者やスタッフの年齢は20歳代がほとんど。しかも全国的なネットワークを駆使してのイベントのにぎわいは、これは圧巻でありました。

来年も継続して行いたいという希望が主催者よりあったと聞いておりますが、ぜひ市が後援して企画の段階からかわれないものかと思っています。今年度、教育委員会が後援をしてかわっていただきましたが、会場使用料として20数万円を徴収したというふうなことも聞いております。長井市に訪れた方々は多くは県外でありました。しかも関東、関西方面からも多数おいでになったと聞いております。

私がレインボープランの推進協議会の会長斎藤さんと2人で担当しました講座、長井市の生き残り方の1つであります循環型社会の構築に取り組んでの話をしたんでありますが、最後に

こんなふうに訴えさせていただきました。ぜひこの長井市で暮らしてみませんか。一緒に循環の輪に入って、私たちや子供たちの未来のあり方を探してみませんかというふうなお訴えをさせていただきました。

古代の丘を中心とする西根の地区の環境のすばらしさに魅せられてのことではありましようが、後日、ある方にこんなことを聞かされました。こんなすてきなところで暮らしてみたいということで、何人かの人からこの地域に空き家はありますかと聞かれたということなんです。多分、来場者の多くの方々は長井市が持つ資源の豊かさを発見されたことでありましようし、そしてまた、来年も参加して長井市に來たいと思って帰られたのではないかと思うわけです。

このことをぜひ今後は長井市の観光施策、そして定住人口増加にも反映させていただきたいと思うのであります。長井市の若者と来訪者の交流がこれから促進されて、若者の夢を語れるまちづくりにも寄与できるものと考えます。

最後に、市長にそこのお考え、どんなふうにお持ちかお聞きして、壇上からの質問とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 江口議員のご質問にお答えいたします。

まず、第1点目の継続性のある中心市街地の活性化についてでございますけれども、議員のほうからは桐町成田線の街路整備事業について、周辺地区の関心度と期待度をどのようにとらえているかということでございますが、私も昨年度から本町の街路事業、桐町成田線の事業につきましては、かなりうわさが先行してさまざまな市民の中で反対、あるいは賛成という話があったということから、正確な情報をまず伝えなきゃいけないということで、昨年も、今年度ですか、「あやめれば」で取り上げてみたり、あ

るいは座談会にお邪魔した際、地区または団体へのさまざまな時間をいただいたときに詳しくお話をさせていただいているところでございます。

確かに関心度と期待度というはあるんだとは思いますが、よくわからないというのが多分市民の率直なところだと思います。私はこれからどうするかをやはりきちっと話し合いをしていくべきだと。

街路事業と中心市街地の活性化はイコールではないんですね。街路事業というのは本町の商店街をどういうふうに再生させるかということが、恐らく地元ではメインなんです。しかし、市ではそれだけにとどまらないで考えていかなきゃいけないということが、私は25年間、あるいは30年近くずっと採択できなかったのが採択できたこと、採択してもらった大きな要因というのはその部分だと思ってます。これは個人的な考え方ですけども、もちろん地元の本町・中央まちづくり協議会の皆さんや、あるいは地権者、地区の方、住民の方の応援があったからこそですけども、それと商工会議所も応援していただいたということなんですか、結局なぜ採択していただけなかったかということ、客観的に見てもう商店は、商店っていいですか、大規模小売店が郊外に立地してますし、あるいは置賜の長井市の周辺だけでも米沢市、南陽市、山形市あたりでは魅力的なショッピングセンターがたくさんあるわけですから、本町に街路事業をやったことによって、じゃあ、そこにお客さんが戻るかというのはちょっと厳しいだろうという見方が、やっぱり一般的に国、県の見方だったと思うんですね。長井市もその部分は非常にちゅうちょしてた部分が今まであったんじゃないかと。でもそうじゃないんだと。あくまでも中心市街地としてこの事業を活用するということ、地元と一体となって訴えてきて採択いただいたということでもありますので、そういった意

+

味では周辺地区の関心度と期待度ということではないんですね。これからどうするかをつくっていくという考え方なんです。

ですから、本町の街路事業はコンセプトはありますよ、「お母さんと子供に優しい」、それはそれでいいんです。しかし、中心市街地はそれじゃないわけですよ。それだけではないんです。それは必要条件かもしれませんが、必要十分条件じゃないというふうには実は私は思っています、ですから、これから進めていきたいということで5つの商店街、それから関連する宮・小桜街区まちづくり協議会、これをつくっていただきました。自分たちも自分たちのまちをどういうふうにするかということを考えなきゃいけない。また、かわまちづくり協議会、これは長井市は川のまちだからということでその川をまちづくりに生かそうという、舟運の長井をその歴史も踏まえてどういった物語をつくっていくかということと一緒にやっていこうというテーブルを設けなきゃいけないと思っています。それを24年度からやらなきゃいけないと思っています。

ですから、これからなんです、江口議員。そういう意味では今回の質問は大変ありがたいなというふうに思っているところです。

周辺の関心度ということについては、ようやく今年度入ってからいろいろ説明させていただきましたので、大分理解していただいたかなと思っています。あわせて県のほうからは長井市とあと地元がそれだけやる気あるんだったら、駅前通りも、長井駅海田線、県道のところの駅前通りなんです、そこも事業として街路事業を将来的にしようじゃないかということで、大体おおむね協力的な方向になっております。

そうしますと、あそこの街路事業は本町だけではなくて、駅前通りも含めてまちの中心部、少なくとも2つの商店街を取り込んだ相当大がかりな新たな長井の顔づくりになる。そのとき

にやっぱり心配してるのは、商店街だけで考えていったら果たしてどれだけもつだろうと、新たな店舗を構えても非常に厳しいと。

そこでちょっと順序がいろいろ入れかわって恐縮なんです、この間、市民未来塾で江口議員、あるいは小関秀一議員も参加していただいて、大変ありがたいと思ってるんですが、1年間の報告会の中でもプレゼンテーションがありました。鈴木さんという女性の方からは、中心市街地にさまざまな緑地を、森をつくって、歩いて、あるいは住んで安らぐような、そういう考え方も必要じゃないとか、あるいは若い塾生の方からは、長井市は飲食街が少ないと、飲食店が少ないと。飲食店をいっぱいまちなかにつくることによって、魅力が増すということがありました。

こういったことももちろん必要なんですけども、やはりそれももちろん十分条件でないわけですね。やっぱり人が集まらないと、人が来ないと飲食店はもたないわけですから、商店もそうですね。ですから、いかに周辺の市町村の方から、市民も含めて買い物に来ていただくか、あるいは観光、交流のお客様にまちなかに入ってきていただいて、そういった店とか飲食店を利用していただいてお金を落としてもらおうかという仕組みづくりをつくらなきゃいけないです。

そうしますと、大きな問題が生じます。それは何かというと、かなり行政的というよりも、民間の企業的な発想でまちづくりをしなきゃいけない。長井市としてはこれは中心市街地活性化の基本計画を立てなきゃいけない。なおかつ、これは国の認定を受けた事業をしなきゃいけない。そうしますと、さまざまな特典があるんですね。補助率も高くなります。しかし、同時に民間の事業会社、民間のやる気が試されるんですね。

そうしますと、形としてはいろいろあるんですが、市はハード整備で頑張るということにつ

いては非常に評価してもらってます。国などでも、国交省、総務省、あるいは経産省でも。しかし、民間の姿が見えないと。この民間をどうするかというのが実は課題なんです。そうしますと、やっぱり民間の場合は商工会議所を中心としてまちづくり会社をやっぱりつくっていただくしかない。これらについては商工会議所のほうにお願いをして、これはぜひ議会からもご承認いただいて、市でも出資したまちづくり会社をつくるべきだと思ってますが、そのときには商工会議所も市内の企業のほうから支援を得てまちづくり会社、それなりのプロデュースできる人間を確保しなきゃいけないわけですね。そうしますと、町田議員のご質問にもありましたように、まちなかに民間の例えば集合住宅であったり、福祉、老健施設であったり、保育園であったり、認定こども園であったり、そういったものをつくれる可能性がある。そうした場合にやっぱり行政として非常に難しいのは、街路事業についてはもう大部分が国、県のお金です。市はお金をほとんど出すことないというのがメリットなんです。しかし、その周辺とかその機能を高めるために市の事業をしなきゃいけないと思ってます。それがこの間説明させていただきました観光振興計画と密接に関係するわけですね。でも観光振興計画はやっことし今、構想の段階なんです。ですから、具体的な人数どうだとか、波及効果というのは、実はこれから積算するものだと思っておりますので、余り具体的な何人ぐらいを想定します。私の個人的な考えでこれぐらいの経済波及効果を考えてます。あんまり言うべきじゃないかなと実は思ってるんです。

ただし、1つの本町の街路事業の試算として考えたいのは、先週、本町南の座談会をしていただきました。その中でいろいろお話しさせていただいたんですが、ヨークベニマルの現在の長井支店長さんも出席されていまして、ちよっ

とこれからの動向についてもお話をお伺いしました。その際に、今は、大体そのときもおっしゃったんで問題ないと思いますが、大体売り上げが20億円程度だと、あそこの店舗が。最盛期はその倍ぐらいであったというお話なんです。

ですから、私は例えば本町のこの街路事業、どれぐらいのにぎわいとか、どのぐらいの人出だということころは、売り上げベースで25年前のまだにぎわってたころ、郊外に店舗がなかったんですね。すぐ市役所のそばにはダイエーがありましたけれども、あとうめやさんは周りにありました。サンプラザありました。でも最盛期のあたりで40億円ですから、そのぐらいのときの人出が出るようなものが1つのまず本町としての目標ではないのかなというふうに思っております。

あとどのぐらいの人数がいれば、まちなかを歩いてればいいのかということについては、これから数字をやっぱり精査しなきゃいけないと思ってます。これはもちろん実施計画を組むときに、例えば都市再生整備計画、それはもう専門家にある程度ゆだねる、こちらの意思ももちろんあるわけですが、そして採算性のとれる事業だということをやっぴりきちんと証明された後でない、なかなか着工できないだろうというふうに思ってます、さまざまな部分。これは行政がある程度投資的経費としてやる部分ですから、非常に難しく慎重にしなきゃいけないと思ってます。ですから、これからだと思ってます。

あと観光振興計画もそういったことで、ことし基本構想の段階なんです。まだ。ですから、議会には実際、全協でお話しさせていただきましたけれども、まだまだ事務レベルでの話を、本当は議会の皆様にお知らせするというのは余りよろしくないだろうなというふうに思いましたけれども、重要なことだと思いましたので、議会からの求めに従って説明したわけござい

+

ますが、実際は24年度に行っていきたいと。その際には未来塾の塾生の中からもどなたかを入れていただきたいなと思ってますし、その中心市街地の活性化のための協議会、ここにも未来塾の方にも入っていただくべきだろうというふうに思ってますし、できるだけ内外のいろんな識見の持っておられる方に入っていただきたいと思ってます。

同時に、最終的にはやっぱり戦略的なものが必要になると思ってます、地域戦略的なものを。これは赤間議員がおっしゃったように、やはり一番長井市で重要な課題というのは、雇用をどういうふうにして守るか、あるいは新たに創出するかと。特に若い人たちや女性の仕事が非常に少ないというのが数字でも明らかになっておりますので、これらについて企業誘致、あるいは製造業の受注開拓、需要の拡大、これらも含めて、農業もそうですけども、あらゆる部分でこれをやらなきゃいけないと思ってます。ですから、そういったことを含めて、まず考えていきたいと思ってます。

ちょっと順序がいろいろ逆で恐縮ですが、この項で最後に、商業者の担い手と後継者をどのように育成していくかということと、それから周辺地域の5地区の考え方なんですけど、まず、商業者の担い手と後継者ですけども、今もさまざまな形で商工会議所さんが中心となって、商業者の担い手のためのいろんなセミナーをなさっているようです。市としてもそれらについて応援してるわけですが、私として期待するところは、やはりこの間の市民未来塾のパネルディスカッションの中で、一橋大学名誉教授の関先生がおっしゃったように、実は私たちが未来塾の塾生の方にお願ひしたいことは、提言をいただくことよりも、これから長井のまちを担っていただく人材に育てていただきたい。ですから、商業者の担い手でもいいですし、企業を起こしてもらえるような、そういうことを

関先生おっしゃいましたね。企業を起こしてもらえるような人材が育つべきだと。行政にすべて頼るような、そういう人材ではないだろうということをおっしゃってましたので、そこをぜひ江口議員からもご指導いただきたいと思ひます。

それと5地区と中央地区の互恵関係っていいですか、難しい言葉ですが、第5次総合計画を来年と再来年で作ると。その中で地区の地区長さんとか連合会の皆さんにもお願いしてますが、この次の第5次総合計画は地区の計画もきちっと総合計画に反映させたいと。

それは例えば私の住んでる豊田地区なんですけど、豊田地区を中心にどうするかということを考えることじゃないんですね。そうするとどこでも同じ計画になるんですよ、豊田であろうと、江口議員が住んでらっしゃる伊佐沢であろうと、伊佐沢だけを考えたらそうなるんです。そうじゃなくて、長井市全体のまちづくり方向性を示して、ある程度考えてますよと。その中でこういった合意がされてますと。豊田はどうしますか、伊佐沢はどういう役割分担しますかということをやったり全体でまず話しした後に、じゃあ、伊佐沢ではどうしよう、豊田ではどうしようということをやったりみんなで話し合いをして、その中でそれぞれ役割分担をしながら長井市を繁栄させていく。市民の幸せを目指していくということが必要になると思ひます。それもこれからの作業です、実は。

ですから、江口議員のご質問というのはこれからのことですので、大変参考になりました。ぜひ私と考える方向は全く同じですんで、いろいろご指導賜りたいと思ひます。

2番目の観光振興計画でございますけども、(1)の部分ですね。これは最初、私が申し上げましたけれども、今現在、長井市の観光客の総数というのは、これは統計上の数字です。約60万人なんですね。しかし、長井市には観光産

業が成立してないということからわかるように、この60万人の、失礼な言い方ですけど、これは市民の皆さんの数も入ってるはずですね。

そういったときにどのぐらいの、じゃあ、経済波及効果があったかという、恐らく、こういう言い方は失礼ですけど、1人500円として60万人で3億円ですよ。3億円あるのかなという程度のものなんですね。例えば久保桜は13万人ぐらい。それはもちろん市民も入ってるわけですね。久保桜で13万人の方がどのぐらい1人当たりお金を使っていたか。ほとんど使っていただけてないというか、使えない状況なんですね。ですから、そこのところが課題であるだろうと。

ですから、数字だけを上げるのは非常にナンセンスなんですね。ですから、いかにしてお金を落としてもらえよう仕組みづくりを同時にやっていくかと。ですから、お土産店であったり、菓子店であったり、飲食店であったり、そういったところだと私は思っておりますので、ここについても数字はこれからぜひいろいろ積み上げながら目標値を出していきたいと。しかし、今回の観光振興計画というのは、観光の産業化を目指そうと。観光によって雇用が生まれるようにしないとやはりだめじゃないかと。

この間もJR東日本と県と私も置賜と村山の市町村でやっておりますやまがた花回廊キャンペーン、ことし5年目だったです。来年もやるということにしました。JR東日本の原口常務さんがいらして講演されたんですが、やっぱり観光の即効性、経済波及効果の即効性ってすごくあるんですね。一番あると言われてますし、すそ野が広いと。ですから、これはもちろんいかに落としてもらうかという準備をした上での観光客なんですね。JRさんについてはJRで来ていただくということですから、これはもうJRは観光しないと多分あの会社はこれから成長できないということがわかってるから、

いろんなキャンペーンをやってるわけなんですね。

ですから、そういったふうなことで観光については、想定はこれから行っていきたいと。非常に観光振興課長がつくったいい答弁書もあるんですが、ごちゃごちゃしましたんで、この辺は残念ながらこの次にということにさせていただきました。あとこの項の最後、「ぼくらの文楽」ですけども、これもすばらしいなというふうに思っていました。実はこれは全く民間のしかも若い人を中心にして出てきた企画です。

私も実は主催者が子供の知人だったものから、子供のほうからこういうことをやるみたいだから、市でも応援してもらいたいなみたいな、それは子供のあれはありました。しかし、私はそれはやっぱり若い人たちが自主的にやる事業だということで非常に応援はしたいなと思っていました。教育委員会のほうに相談ありまして、あそこの施設っていいですか、教育委員会の管轄の部分が多いということで、あと駐車場とか、そういったことでいろいろ相談あったようです。ですから、教育委員会といろいろ協議しまして、ここはこういうふうにして協力したらいいんじゃないか、ああしたらいいんじゃないか。

確かに20数万の使用料ですけども、これ正式に言ったら余りここで申し上げるのはよくないかもしれませんけども、そんな金額じゃないです。もう10倍とは言わないですけども、相当かかるんですよ。しかし、いろんな地元の地区公民館で、西根地区公民館が全面的にバックアップなんですね。ですから、いろいろ支援はできるだろうということで、いい解釈をして正規料金をいただきました。ですから、例えばここ1週間分もらわなきゃいけないんじゃないかと。でも実際使うのは2日間だから2日間でいいよなとか。しかし、拡大解釈すれば、やっぱり1週間または10日分もらわなきゃいけないですね。

+

その辺のところで応援しました。それは教育委員会が後援したということと、地区公民館が全面的にバックアップしたということで。

ただし、これから市のほうでいろいろ支援するというのは、企画段階というのは、私はすべきじゃないなと思ってます。全面的に支援はしますけども、やっぱり若い人たちの発想でやったほうがいいんですよね。ですから、我々は縁の下で力持ちに徹すると。それで企画段階から市で入ったら、当然あれは有料ですよ。有料で一般市民は入れないんですよ、お金を出さないと。これはなかなか難しいですよ。むしろ私は若い人たちの、しかも都会の人たちが企画しているいろいろやると。それについて地元として全面的にバックアップするという形のほうが絶対いいと。自由な発想でやると。なおかつ、我々が支援するとしたら、じゃあ、市民の皆さんがそのチケットを買うときに、じゃあ、助成しようじゃないかとか、そういう部分だと思うんですね。企画から入るなんていうもんじゃないと私は、そういうふうに思います。

ちょっと不十分な部分もあるかもしれませんが、ぜひいろいろご指導いただきたいと思えます。以上でございます。

○蒲生光男議長 3番、江口忠博議員。

○3番 江口忠博議員 ありがとうございます。市長の所信表明を伺ったような長い答弁でありありがとうございます。

今、最後のところをちょっと申し上げましょう。ちょっと最初にお答えいただいたことが少しずつ薄れてきましたんで、最後の反対からいきます。

「ぼくらの文楽」についてであります。私が申し上げたのは、未来塾もそうですが、市の若手職員をこれからどんなふうにするかというところの教育の育成期間、これからあるわけですけども、私は「ぼくらの文楽」にかかわっていたかなり20代の

方々が多いんですが、全国的なネットワークなんですね、スタッフの方々が。あのぐらいの企画力を持ってやっておられて、長井市でこれ単体であれをやれといっても多分無理でしょう。ですから、市が企画段階から加わってと申し上げたのは、市の職員も勉強がてら参加させてもらって、そして地域の中の本場にイベントをこれから、企てごとをするに当たり企画立案力というのをちょっと学んでもらいたいということもあったのであります。その辺はちょっと答弁は結構ですので、そこの気持ちだけちょっとお伝えしておきたいと思えます。

先ほどの答弁の中で、地域、観光振興計画についてもこれから都市再生整備計画についてもまだまだ計画段階であって、具体的なことはこれからなんだとおっしゃってますが、いや、実は市長が書かれたティーブレイクの中では、かなり言葉もしっかりされてて、具体的な姿が少し見えてくるような気がしたんですね、これで見ると。ですから、まだまだ公表できる段階ではないとおっしゃりつつも、ティーブレイクを見ますとこういう姿になるんだなというようなことも市民の方々は多分わかってる。確かな情報ではないんだけど、おぼろげながらもそういう姿がわかられてしまったわけですよ。

そうしますと、どうしてもそのイメージというのはひとり歩きをしますんで、その情報の出し方は非常に難しいと思うんですが、スピード感なんか難しいと思うんですが、私はまちの中の商店街の後継者の方々にずっとこれから、若い人、何代も何代もということは多分続かないだろうと思えますが、周辺地区の方々がまちの真ん中でチャレンジショップを行いたいというふうなことまで動機づけをさせるには、やっぱりにぎわってないといけません。にぎわってるといのは、経済活動が活性化ということじゃなくて、とにかく人がいるという状況ですね、通りに、あるいは公園でもいいんですよ。

人がそこにたたずんでいるという状況がないと、そこで商売をしようという気すら起きないと思うんです。これはヨーロッパなんかに行ってみますとそうです。やっぱり常に人がいるんです。そうすることによって少しずつ少しずつ小さなチャレンジショップが始まって、屋台が始まって、それてまたまた人が集まってくるという、そういうことなんですね。ですから、これからの中心市街地のつくり方は、経済活動はどうすればうまくいくかということ大事ですけども、人をどうすればそこに人がたたずむこと、スペースができるかというようなところも考えていけないといけないんだろうと思うんです。

未来塾のプレゼンテーションでまちなかに森をつくらうというプレゼンテーション、市長さつき例として出されましたけども、あれは私のプレゼンテーションを鈴木さんにさせていただいたんですが、人が出かけたくなる景観、雰囲気というのをぜひまちの中につくるべきだなということを考えているんです。

なものですから、中央地区の街路事業、都市再生整備計画、あるいは中活事業とか、いろいろ言葉があって、それぞれ法律も違ってお金の出どころも違うんでありましようけども、でも市民の方々は都市再生整備計画も観光振興計画も街路事業だって同じなんですよ。まちの形が変わっていくことには変わらないわけですね。しかし、そここのところこのまちが、中心市街地がどんなふうな形になって、それを周辺地域がどうサポートとしていくかというところの考え方を示してもらわないといけないだろうなと私は思ってるんですよ。

というのは、事業は違います。それはわかりますけども、市内、今2万9,000人余りの市民の方々がやっぱりこの事業は大きな事業として期待しますよね。市長もそここのところは、これは本当に大きな事業なんだというふうなことで街路事業もおっしゃいました。商店街から始ま

った街路事業であったかもしれませんが、今まちづくり協議会は何で商店主を会長に置いてないか。桑島先生を会長に置いているかということ、商店街のイメージを少し薄くして、本町全体、中心市街地全体の商店街の方々以外の方々にもこのまちづくり事業に参加してもらわなきゃいけないんだという思いから、桑島先生に会長になってもらってるということをお聞きました。そういった意味では、本当に商店街だけじゃなくて、あそこに住まうの方々にとって、周辺の地域の方々がどんなふうに関心を持ってらっしゃるかということも大事だと思うんです。その辺ちょっと。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 私はそれを否定は一切してないつもりなんですけど、ただ、確かにティーブレイクで具体的に書いてんじゃないかというお話ですけども、それは目的を私は言ったんです。ですから、いろんな考え方があると思うんですよ。これから計画をつくるときに、私はこれ以上あんまり言えないなと実は思ってるんですよ。計画の中身をいろいろ議論するというのは、実はご意見、ご提言はいただきますけども、これがいい、これが悪いということは、実は私ども当局側できちっとある程度スタンスを示してから議会に提示させていただいて、ご意見をいただくというのが基本だろうと思ってまして、計画をつくるときに我々事務方だけではつくれません。市民の皆さんのいろんな意見をいただかなきゃいけない。しかも都市再生整備計画だったり、街路事業であったり、中心市街地の活性化基本計画というのは、いろんな団体から意見をいただかないとつukれないんですよ。それをしないうちに私があんまり言えないなということがあるんですよ。

ですから、議員がおっしゃるのはよくわかるんですけど、もう具体的に書いてんじゃないか。それは狙いを言ってるんであって、こういうふ

+

うにしてこうすれば雇用が生まれるじゃないかと。そういうことを一緒にしていかないと、江口議員と言ってることは同じなんですよ。人が集まるまちなんですよね。あと住んでよし、訪れてよしのまちなんですよ。観光庁が言うビジョンキャンペーンのキャッチフレーズですよね。これそのとおりなんですけども、これを議論してもなかなか私これ以上答えられないんですよ。ですから、この間の全協でも高橋孝夫議員からとか大道寺議員からもいろいろ質問いただいたと思うんですが、具体的な数字なんていうのは上げられる状況じゃないわけですよ。これからどうするかという構想段階のものを私が全部言ったら、何かやらせじゃないかと、後のつくるやつは、そうなりますよね。ただ、私としては方向性としてこういうものを作りたい。しかし、それは庁議の中でもまだ決定した事項ではありませんし、ですから、一つ一つの中身をやっぱりお答えするのもいいんですけども、全体的な問題として、実はこの中心市街地の活性化についてはしなきゃいけないということで、地元の本町、中央の皆さんと一緒に、あるいは商工会議所と一緒にこれからやりましょうねという中身のものですから、それを私が余り詳細にわたってどうのこうの言うよりは、総体的な概論的な部分で意見交換をさせていただきたいなということで、済みませんが、こういうふうな答弁をさせていただいたところでございます。

○蒲生光男議長 3番、江口忠博議員。

○3番 江口忠博議員 今、市長がおっしゃってくださったいろんな方々からの意見、考え方を聞きしなきゃいけないということはわかりました。ですから、周辺の方々のお考えも、あるいは期待も希望なんかもぜひこれから聞いていただきたいと思うんですよ。具体的に何かそれはお持ちですかね。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 これからのそういうテーブルと

いうことですが、まず観光振興計画につきましては、もう既に委員会みたいなものをつくろう。そして来年度にかけて、2年間にかけてつくっていくということですから、それについてもちゃんと市民の方を含めてやるように準備しております。

それから中心市街地の活性化基本計画をつくらなきゃいけない。それは当然さっき言いましたように、本町・中央まちづくり協議会であったり、宮・小桜街区まちづくり協議会であったり、5商店街の皆さんであったり、商工会議所とか、いろんな経済団体であったり、あとかわまちづくり推進協議会であったり、そういったものの方たちとそれ以外にも必要かもしれませんけども、そういうテーブルを設けて国の認定を受けられるような協議をしてこうということをしてるんですね。

あと第5次総合計画をつくるときに、各地区との皆さんとの協議の場を設けてやろうって言うてるんですから、私が全部するなんてことは言ってませんし、そういうテーブルは設けますよというふうに私は答弁ですべて答えさせていただいたつもりだったんですが。

○蒲生光男議長 3番、江口忠博議員。

○3番 江口忠博議員 ちょっと誤解があったようで大変失礼しました。第5次総合計画の中での地区ごとの計画作成における地区での協議ということだと思ったものですから、今回、中活事業については街路事業なんかも包括的に盛り込んだことだと思うんですが、この段階でも、私は周辺の方々の話をもう今からでもいろいろお聞きする機会があったらなど。市長、いろいろお出かけになられて地区で懇談会なんかもされておられるようですから、その席でもぜひ期待なども、意見なども聞いていただければと思うんです。

というのは、きのうの、実は未来塾がありまして、塾生の中でのミーティングでたまたま街

路事業の話が出まして、なかなか見えてこない。見えてこない段階までのことなんでしょうけども、まだ。具体的なことはそんなに進んでないんでしょうけども、期待が高い分だけ心配をしてるんです、市民の方々は。そういう方々も多い。どうなるのか。つまり、あそこに自分も何か参加してみたいんだけど、先ほど市長がおっしゃった提案型じゃなくて、自分もそこで商売をしたいとか、お店をしたい、事業を開きたい、やりたいという思いの方はもう既にいらっしゃるんです。ですけども、どんなふうにそれが進んでいるのか、全然見えてこないもんですから、不安だ、心配だという声もあるんですね。ですから、その辺では情報の出し方は非常に難しいと思うんですけども、進捗状況も含めて難しいところはあると思うんですが、広くいろんなところからの意見なども、希望なども聞いていただければなど、まず期待をしていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

先ほどの「ぼくらの文楽」の話に戻りますが、1,500人余りの人が集まってきたんですが、その方々は多分それぞれの出身地とか自宅に帰られてからは、多分長井市のよさはかなりPRをされているんだろうと思うんですね。市長がご委嘱されたふるさと大使ですか。あの方々のお役目も大変大きなものが期待できるわけですけども、長井市に訪れてくださった方、「ぼくらの文楽」で訪れてくださった方々がこれから長井市をどんどんPRしてくださる。しかも来年もその次もというふうに考えますと、非常に大きな波及効果がこれからあるんだろうという気がします。そのところを、先ほどちょっと申し上げましたけども、企画段階からというのはそのところの長井市の色気も少し加味したような話もこれからさせてもらえればなという期待からの話でございました。

ぜひ来訪者の方々、観光施策の中でも大事にしなきゃいけないけども、ああいったよその

方が企画した、若い方が企画したイベントで、まず長井市とも本当に縁がなかった方々がどどっと1,000人、2,000人入ってこられるという現実も利用したほうがいいと思いますね。うまく使わせていただいて、お互いに相乗効果が得られるようなことにしていければと思うんですがそのところでもう1回ちょっと確認の意味で市長から答弁いただければと思います。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 「ぼくらの文楽」につきましては、私も非常に期待しておりました。あともう一つ山形鉄道の主体のイベントも民間のイベントもありまして、これも非常に期待しておりました。しかし、結果として「ぼくらの文楽」のほうが地道に着実にやっていただいて、大変よかったなというふうに感謝しております。

江口議員からあつた参画ということについては、市役所の職員の育成が目的というようなお話でしたので、それらについては果たしてこちらから願ひすべきかどうか。あと職員は私は役所からどうか願ひだなんてことじゃなくて、職員みずから行くよと、関心があるんだったら。それは職務命令で出す問題じゃないだろうというふうに実は思ってるんですね。時間外を出して研修させるということではないだろうと。やはり今回の未来塾で半分は市の職員で若手で、これは自主的に自分の判断で行っておりますので、そういったことで江口議員あたりからその情報を聞いて、みずから門をたたき、そのぐらいの気概がないとだめなんだろうというふうに思っております、そこはぜひご指導いただきたい、期待したいと思います。

あとやっぱり江口議員がおっしゃるように、そのPR効果ってすごいものがあつたと思います。ですから、なぜそのときに長井市の観光パンフレットとか、あるいは希望者には何か長井市のことをわかるようなマップとか、そういったものを来年はぜひ用意させてもらいたいと。

+

多分今回、西根地区公民館も全面的に協力いただきましたけど、半信半疑だったんですね。ところが、結果はすごかったもんですから、いや、これはすごいと。私も地区公民館からもいただきましたし、西根地区の座談会、その後3カ所ぐらいさせてもらったんですが、ぜひ長井市も応援すべきだということいただきました、江口議員と同じように。それは私もすごくうれし。しかし、あそこ料金を取って囲い込んでるもんですから、それが市でやるというのは、もう最初から共催の事業だったらまた別なんですけども、そうすると制約が出て参りますんで、やっぱりそれは彼らに任せて、さっき言いましたように、いろんな支援を惜しまないと。同時に、そういう人たちとぜひコンタクトを持って、参加していただいた方、あるいは実際イベントをやっていた方、そういった方々とこれからもおつき合いして、あと空き家なんかについては行政がという話もありました。私はむしろ西根地区の公民館さんあたりで主体的にいろいろ情報を持っているでしょうと。市のほうでは残念ながら人手がないんで、その辺ある程度こうしたらこの部分、行政で手伝えということであればやりますというふうにしました。ですから、そんなことでぜひいろいろご指導いただいて、来年はさらにずっと続いて広がるように、私どもも頑張りたいと思います。

なお、先ほど言いました未来塾のメンバーの方、私も中心市街地3つのゼミがいろいろ担っていただけてますんで、いつ声がかかるかなって実は待ってたんです、待ってるんです。市長、何を考えてるんだか聞きたい。ところが、声がかからないんですね。まさかこういうふうに議会でこの問題がなるとは思ってなかったもんですから、塾生の皆さんと私しゃべりたいんですよ。私はこう考えてますと。そうすると塾生が市長、そこはおかしいんじゃないか。これが議論ですよ。そしてまちづくりと一緒にやってい

く。ところが、私に声がかからないというのは非常に不満です。ぜひ言っと思ってください、お願いします。

○蒲生光男議長 3番、江口忠博議員。

○3番 江口忠博議員 市長の希望、では、早速伝えたいと思いますが、各ゼミすべて年間のスケジュールが決まっています、どの辺に入られるかはわかりませんが、私からもお願いをしておきます。

市長さっきおっしゃった、地区で、最近空き家のことなんかは西根地区で何とかできないかというようなことのご希望もおっしゃられたようですが、以前、農林課のほうでも就農人口の拡大のために空き家をカウントしたときもあったように聞いております。これからは地区ごとに地区計画を立てながら、そういったことも定住者の方々に向けた対策も含めてやっていくべきだと思いますが、さっき市長がおっしゃってくださった市職員がこういった大きなイベントにみずからかかわる。市の業務命令じゃなくて、みずからかかわるといような思いからすると、私はぜひ市の職員の方々には1人1ボランティア、1人1NPO法人でもいいですが、市民活動と同じような目線に立っていただくことがまず必要だと思うので、そういったことは市長のほうからはやったほうがよいと、あるいはやれと、やれとまでは言えないかもしれませんが、市民の方々と一緒にボランティア活動はぜひこれから推進してほしいと思うんですけども、その辺最後に一言お考え、もう1回お聞かせください。

○蒲生光男議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 江口議員おっしゃるとおりですが、前にも江口議員からもいろいろご指導いただいて地域担当職員と、これが1つの私の考え方なんです。ですから、ボランティアとかあるいはまちづくりにNPOに参加しろとか、そういったことはこれからも進めていきたいと思っ

ております。地域担当制も含めて、どういうふうにしてまちづくりに職員みずからかかわるかということは、これからも十分進めていく項目だと思っております。以上でございます。

○蒲生光男議長 3番、江口忠博議員。

○3番 江口忠博議員 第5次の総合計画に向けてあと2年ほどですが、10年に1回の計画でありますので、私は議員にならせていただいて非常にいいめぐり合わせで今回、議員させていただいたなと思っております。非常に慎重な議論これから求められてくると思います。第4次の総合計画についても十分な見直しを図って、実効性のある第5次総合計画に向けた動きを早々にでもつくんなきゃいけないと思っております。

未来塾のほうもうまく活用していただいて、未来にきちんとつながるまちづくりをこれからも頑張りたいと思いますので、市長のほうにも広範な意見のほう聴取いただければ幸いということをお願い申し上げます。ありがとうございます。

○蒲生光男議長 ここで暫時休憩いたします。

再開は3時20分といたします。

午後 2時58分 休憩

午後 3時20分 再開

○蒲生光男議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

小関秀一議員の質問

○蒲生光男議長 次に、順位5番、議席番号5番、小関秀一議員

(5番小関秀一議員登壇)

○5番 小関秀一議員 きょうの最後の質問者となりました。大分お疲れでしょうが、質問を始めさせていただきます。

先ほど来もありましたが、非常にこの1年、激動の1年だったなというふうに振り返っております。私自身も4月の選挙から市民生活の向上のための一翼を担う立場に立たせていただいて、さまざまの勉強もさせていただいたというふうなことでありまして、市民生活も冬の豪雪、東日本大震災等、津波、原発事故等で非常に不安の1年だったなというふうに振り返っております。

また、時節柄ではありますが、来年度の新しい長井市の予算編成の時期にもなっております。よって、本議会では一般質問を通しながら、具体的に来年度の予算にかかわるような課題を考えてまいりましたので、よろしくお願ひ申し上げます。

1番目でございます。長井市の行財政改革推進方針についてのかかわりでございます。

最近まず驚くことが幾つかありましたが、先ほど江口議員の発言にもあったように、12月1日付の市報の「市長とティーブレイク」の欄で、市長は既に都市再生整備計画の細やかな部分まで記事にしておられるということについて、驚きを禁じ得ませんでした。つまり、この計画がもう既にスタートしたかのごとき表記になっているということについては、多くの市民の方からの問い合わせが私にもあったわけでありまして、しかもこの間の議会の全員協議会についてもですし、検討委員会についても構想図、特にここは大事なわけですが、場所を特定できるような図面まで一般市民に広がっておるというふうなことについては、大変是非論はあろうかと思いますが、私は驚いたわけでありまして。

2つ目でございます。23年3月に答申されました長井市の行財政改革推進委員会からの回答書